

# 防除所情報第6号

令和5年12月20日  
山梨県病虫害防除所

## 【施設栽培トマトの黄化葉巻病対策について（半促成栽培開始前の対策）】

### [発生の状況]

- (1) 県内の施設栽培トマト（抑制）におけるトマト黄化葉巻病は平年と比べて発生がやや多い。本病の病原ウイルスはトマト黄化葉巻ウイルス（以下、TYLCV という。）で、コナジラミ類の一種であるタバココナジラミにより媒介される。
- (2) 抑制作型の11月のコナジラミ類成虫誘殺数は、施設内で46.6頭/日・枚（平年値：1.4頭/日・枚）と平年より多かった。
- (3) 12月上旬の施設内のコナジラミ類成虫誘殺数は26.0頭/日・枚（平年値：1.4頭/日・枚）と平年より多く、12月の定点調査でもコナジラミ類の寄生株率が32.0%（平年値：9.9%）と高く、次作への影響が懸念される。

### [防除対策]

黄化葉巻病の感染を防ぐには、TYLCVを媒介するタバココナジラミの防除が重要であるため、以下の対策を徹底する。

#### 抑制裁培終了時の対策

- 栽培終了時には株を地際で切断し、十分に枯らしてから施設外に持ち出す。
- 施設内外の雑草は、コナジラミ類の増殖場所となるため、除草を徹底する。
- タバココナジラミは低温に弱く、冬期氷点下になる地域では露地越冬が困難であるため、厳冬期に施設を開放して低温条件にし、施設内で越冬させないようにする。

#### 半促成栽培開始時の対策

- 施設開口部（天窗、側窓、換気扇口等）は0.4mm目以下の防虫ネットを展張し、コナジラミ類の侵入を防ぐ。すでに設置している場合は、隙間や破れ等がないか注意して確認し、経年劣化により破れ等がある場合は直ちに補修する。
- 栽培施設の出入口は二重構造にし、開放状態にならないようにする。
- 育苗期や苗導入時から防除を徹底し、導入後はすぐにポットへの薬剤処理を行う。また、定植時には病虫害が寄生・罹病していない苗を用い、同時に粒剤を処理する。（薬剤については表1参照）
- ほ場周辺や施設内には、黄色粘着テープ等や銀色反射資材（UVシルバー等）を設置し、施設内へのコナジラミ類の侵入を防止するとともに、施設内に入ってしまったコナジラミ類を誘殺する。

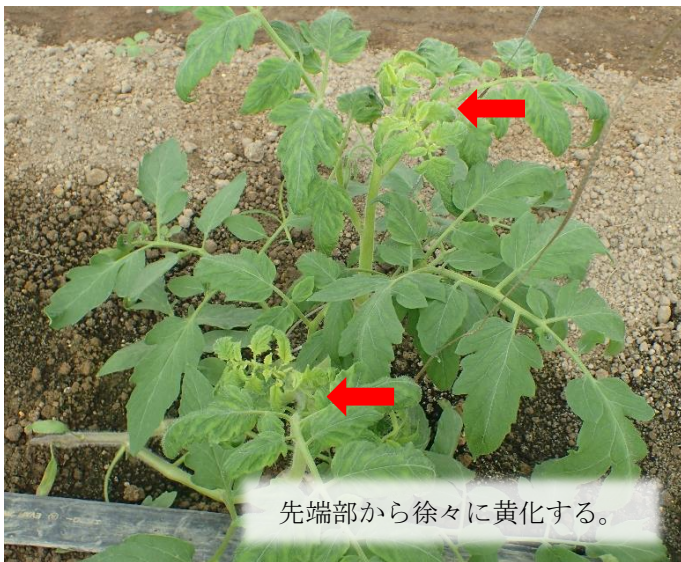
表1 トマト育苗期から定植時におけるコナジラミ類に登録のある主な薬剤

薬剤名	RACコード	使用量・希釈水量	使用方法	使用時期	使用回数
ベリマーク SC	28	薬量 25ml/400株 (希釈水量 10~20L/400株)	灌注	育苗期後半~ 定植当日	1回 <sup>※1</sup>
プリロツソ粒剤オメガ	28	2g/株	株元散布	育苗期後半~ 定植当日	1回 <sup>※1</sup>
ベストガード粒剤	4A	1~2g/株	植穴処理 土壌混和	定植時	1回
スタークル粒剤 <sup>※2</sup> アルバリン粒剤	4A	1~2g/株	植穴土壌混和	定植時	1回

※1 ベリマーク SC、プリロツソ粒剤オメガの定植時までの使用はどちらか1回まで

※2 スタークル粒剤、アルバリン粒剤の定植時の使用はどちらか1回まで

発病初期の様子



症状が進んだ様子

